

オラホの憲法九条

森 猊郎

その一、この国の人間は、これからは、なにが
あらずが、よその国の人間を、殺したりしねだし。
よその国もこの国もねだねか。どこの国の人間と
でも丸くやっつけていかず。

たとえ国と国のもめごとだらずが、お国のため
だなんてせつて、戦いくしかけたり、力づくでおどし
たりだまくらかしたり、殺したり殺されたりすん
のは、これつきりやめらず。国と国だらずが人と
人だらずが、殺しあつてなんになるだらず。

これは千年万年のちまでのとりきめだし。

その二、戦いくはしねだから、陸海空の軍隊なんて
もなあれらねだし。あれこれ勤いくへつて戦いくに備える
よつなことはしねこんだ。備えあれば憂いありだ
し。刀あれば切つてみたくなる。槍あれば突きこ
くつてみてえや。鉄砲あればぶっ放したくなるだ
らず。そんなもんねきや戦いくうわけねえだし。

この国は、なにがあらずがこれつきり戦いくはや
めらぬ。やめしよ。やめらぬ。